

# 宮古教育時報

発行者 沖縄県教職員組合  
 宮古支部 情宣紙  
 TEL 72-3328 FAX 73-2603  
 E-mail; otu-m@miyako-ma.jp  
 ◇各分会の情報をお知らせ下さい。

## 中央教研集会参加者報告より

前回号に引き続き、教研集会参加報告です。今回は、外国語分科会に参加された砂川中の當銘朋子さん、不登校・教育相談分科会に参加された、狩俣中の仲宗根幸子さんと佐久川めぐみさんの報告です。



09年度第42次中央教研第2分科会「外国語教育」のテーマは「わかりやすい授業の研究」でした。参加した先生方がそれぞれの現場で実際に使っているアイデアを持ち合って紹介し合い、その良さや改良点などについて話し合いました。各レッスン毎に行っている単語神経衰弱や、授業で使ったフラッシュカードを使ったグループゲーム、また同教科職員間の連携として学習プリントの作成を単語・本文・文法の3つに分けそれぞれ担当を決め教材を共有することなどや、スキットの取り組みとして沖縄プロダクトを英語でCMすること、ペアになった生徒達にフォントの違う単語をたくさん並べたプリントを配布し教師の言う単語を探し出すゲーム（サークルサークル）、弾丸インプット、ディクテーション、ポイントカードの工夫など、いろいろな指導のアイデアを得ることが出来ました。特にオバマ大統領の生い立ちから大統領演説までをリーディングのクラスで取り組み、最後に大統領に英文手紙を書いて送るという授業をしていると話した先生の授業作りの観点などとても参考になりました。共同研究者の沖縄キリスト教学院大学英語教育教諭の村田典枝先生のおっしゃった、「英語教育は今変化の時期であり、グローバル化への対応という面で英語教育が特に重視されてきている。英語教師は自分自身も学習者としてしっかり学ぶ必要があり、また教える教育者としての立場もある。そんな中で中高の指導法をシェアする事はとても大切で、小中高のつながりをしっかり考えて指導していくためにも情報交換の場を出来るだけ持つべきだ」という講評に、いろいろな機会を捉えて学習の場に足を運び、自己研鑽につとめたいと思いました。たくさんの新しい指導法を学び、また、初めて会う先生方との交流も深める事が出来て、とても充実した2日間となりました。中央教研へ参加出来て本当に良かったです。ありがとうございました。



砂川中 當銘朋子

去った、11月13・14日の2日間にわたって初めて参加しました。楽しみにしていたのは、テレビ等でも取り上げられていた土肥信雄元校長先生の講話。常に元気一杯、ステージ狭しと歩き回り、大きな声で話をしている校長先生からは生徒達への「愛」で溢れているなあという印象でした。学ぶべき内容も多くとても勉強になりました。

又、今回参加して一番良かったのは、沖縄県全体の先生方と一緒に話が出来た。という点でした。私は、教育相談の分科会に参加しましたが、各学校の実態、普段は話を聞くことも難しい、小学校、中学校、高等学校における比較や保護者との関係、各関係機関との連携、対処法の違いなど知らなかったことが多く、初めて気づかされる こともありました。

初めての参加でしたが、話を交わしていく中で、年配の先生方の熱心な学び、子ども達を守るための法律のことや各機関への連携などとても詳しく、勉強不足を痛感した私は先生方の力強さにただ圧倒された時間でした。

日々の忙しさにかまけるだけではなく、教師として学びを高めていく良い機会だったと思います。有難うございました。

狩俣中分会 佐久川 めぐみ

全体会での土肥信雄さんの講演会は心に残るすばらしい講演でした。東京都で行われている教育行政（職員会議の挙手・採決の禁止、個別的職務命令、卒業式における都教委の監視・・・）に驚きと恐ろしさを感じると同時に、土肥さんの「生徒のため」という熱い思いとそれを支えている生徒、教え子、保護者との硬い絆を感じました。「明石さんまみたいな先生だったね～」という声が聞こえていましたが、まさにピッタリ。お笑い芸人のような土肥さんのパワーと元気をもらった、あっという間の2時間でした。

翌日の分科会は「不登校・教育相談」への初参加でしたが、8名ほどの少人数で内容的には暗く重いですが、レポートや発表も自由で（初対面にもかかわらず）何でも言い合える和気藹々とした分科会はとても新鮮でした。「ある学校の校内研と夜の自主学習会に講師として参加したSSWさんが、同じ職員で場所が変わればこうも雰囲気が違うのかと驚いた」と司会が話していたのを思い出し、本音で語り合える場所、一緒に悩んでくれる場所があるのはいいなあと、改めて教研の素晴らしさを感じました。

15年ぶりに通った「中央パークアベニュー通り」の変わりようと「あしびなあ～」の閑散とした雰囲気（両方ともシャッターが降りている店が多く、人通りも寂しかった）に、一抹の寂しさを感じ、そして宮古支部書記局（福原様・上地様）に感謝しながら（会場へはレンタカーでみんなと。）の貴重な教研集会でした。ありがとうございました。

狩俣中分会 仲宗根幸子

\*うるま市で起きた中学2年の男子中学生が同級生から暴行を受けて死亡したとされる事件を受け、県教育庁は情報共有化のため、新たな制度、文書（指導記録簿）を作る方針だ。「生徒理解のための情報教育システム」として、来年度からの導入を目指しているという。小学校・中学校の導入については、当該市町村教育委員会の判断に委ねられるのだが・・・。

かつて、北谷町の中学校で同様の事件が起きました。その対策として、全ての子どもたちの「生徒指導カルテ」の実施が行われてきました。この「生徒指導カルテ」が個人情報の観点から、全ての市町村で廃止または休止の状態になっています。

問題行動や事件等が起こるたびに、生徒指導の徹底と「生徒指導カルテ」等の調査報告を繰り返し、学校現場からますますゆとりを奪い、教師がしっかり子どもたちと向き合う時間が確保されていないと感じますが、現場の先生方、「生徒指導カルテ」等をどう思いますか？必要ですか？

話変わり、「全国学力テスト」についての行政刷新会議「事業仕分け」において予算要求の大幅縮減（抽出対象の絞込み）という結果になった。仕分け人の主な意見として、「サンプル40%はありえない抽出率で理解できない。なぜ6%ではだめなのか。」や「国が把握すべき学力とは何か。調査のための調査になっているのではないか。効果が検証できる調査として10億円でサンプル調査し、あと20億円は読書のための本にかける方が有効。」「これまでの調査結果を生かし実際に生徒の学力の向上施策に税金を投入すべき時期である。」等が揚がった。

しかし、県教育庁が文部科学省の通達を受けて調査した結果、県内41市町村すべての教育委員会が、来年度のテストを受ける意志を示していることが分かった。（12月10日付けの県紙より）

この「生徒指導カルテ」と「全国学力テスト」の件についての各分会の皆さんの意見をお聞かせ下さい。お待ちしております。メールやFAXでも可。

署名集約12月24日まで

私たちの声を県当局へ届けましょう！！

12月25日（金）確定交渉があります。12月1日付け給与の引き下げに伴い、特例措置の見直しにおける交渉です。是非、各分会に配布された署名（未組みや管理職の方にも声かけを）を記入して、提出がまだの分会は支部まで届けて下さい。